

3. 吹田市の生き物紹介 ① 哺乳類

哺乳類の近況

平成 12 年～13 年（2000 年～2001 年）には市内を歩き回って哺乳類の足跡やフンなどを調べたり、ネズミのワナを仕掛けましたが、今回はワナは仕掛けず、自動撮影カメラを導入して動き回る姿の記録を行いました。その結果、吹田市内でノネコとノイヌも含めて哺乳類が 13 種類いることが判りました。特に万博記念公園にはキツネ、千里北公園及び紫金山公園にはタヌキ、弘済院にはタヌキとアライグマがいることが確認されました。また、イタチとアブラコウモリは、ほとんどどこにでも棲んでいるようです。こうして生き残っているケモノたちとは逆に、昔はあちこちに生息していたニホンリスは、今回はどこにも見つかりませんでした。また、前回確認できたカヤネズミは、今回かなり念入りに調べましたが、以前の文献記録が出てきただけで、実物を見つけることはできませんでした。イノシシは、10 年近く前に北千里の三面張り水路に迷い込んだ 1 例だけの記録がありました。

吹田市内は全域がほとんど町になっていて、こうしたケモノたちの棲むところは数えるほどしかありません。また車が頻繁に通る道路があって、うかうか渡ることもできませんし、あちこちに人やイヌがいます。さいわい野犬は少ないのですが、ノネコ（野良猫）があちこちの緑地や公園などを占領しています。さらに最近ではアライグマが侵入してきて、野生哺乳類のなわばりを奪いつつあります。リスの好きな松林などもほとんど無くなりました。

このような悪条件の中ですが、現在残されている緑地などを使って、まだ少しだけは生き残っているようです。

今後の街作りの中で、緑地などをうまくつないでいければ、生息する哺乳類などがだんだん増えていく可能性もあります。

（お願い）これらの動物たちを守るため、どこで見つけたかは詳しくはお知らせしていません。どうかご了承ください。



タヌキ（弘済院区域にて自動撮影）



イタチ（紫金山区域にて赤外線自動撮影）

いることがわかった哺乳類

（現地調査＋文献で確認されたもの）

- | | |
|------------|-------------------|
| 目名 | : 種名 |
| モグラ目（食虫目） | : モグラ属の一種（コウベモグラ） |
| コウモリ目（翼手目） | : アブラコウモリ |
| ネズミ目（齧歯目） | : タイワンリス |
| | リス科の一種 |
| | カヤネズミ |
| | ドブネズミ |
| ネコ目（食肉目） | : アライグマ |
| | タヌキ |
| | キツネ |
| | テン |
| | チョウセンイタチ |
| | イタチ属の一種 |
| ウシ目（偶蹄目） | : イノシシ |

計 5 目 8 科 13 種（同定が不確実な種を含む）

コラム

前回の調査時には、尺谷のあたりにキツネの家族がいて地域の人々が大切にしていました。間もなく開発が進んで、この群れはどこかに移動しました。写真のキツネは、2007 年 12 月～2008 年 1 月に万博記念公園内の日本庭園で自動撮影されたものです。また、2009 年には、職員アンケートでキツネを見たという答えが 2 件ありました。その後、茨木市内のゴルフ場でも見たという話があり、だんだんとそちらに引っ越ししたのかも知れませんが、千里北公園からも姿を消しました。



キツネ 万博記念公園